

令和5年度 学力向上指導改善プラン

学校教育目標		4月			2～3月	
推進主体		成果となる目標			年度末評価	
管理職と学力向上担当を中心に 学力向上推進委員会を設置		(指標となる数値等)			(今年度の成果と来年度に向けた課題等)	
学力に関する前年度の状況・経年の課題等		具体的な行動目標			評価	
(今年度の成果と来年度に向けた課題等)						
学力の状況	国語	<ul style="list-style-type: none"> ◆問題を読み取って題意を把握し、自分の考えを書いたり、理由を述べたりすることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○読解力や自分の考えを構築する力を身につけさせるとともに、書字に対する苦手意識を軽減させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各学年に応じ、指定した規定量の作文を書けるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○朝読書の時間を効果的に活用し、読書習慣を身につけさせる。 ○俳句の交流など、成果物に対して理由をつけて意見を述べる場面を多く設定する。 ○書字が苦手な児童にICT機器で学習を進めさせ、学ぶ楽しさを身につけさせる。 ○低学年から筋道を立てて説明する指導を行い、小グループの交流など自分の考えを伝える場を多く設ける。 	
	全国学力・学習状況調査結果の状況(国語、算数・数学に関する質問紙調査の結果も含む)	<ul style="list-style-type: none"> ◆計算問題を解けていないことに起因した文章題の無回答が目立つ。 ◆九九を完全習得できていない児童が高学年でもクラスに数名在籍している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○練習問題などくりかえし行うことで、基礎的基本的な学力の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学年末に行う三田市計算検定において、全員が合格できる力をつけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○のびのびタイムを効果的に運用するために、ミライシードのドリルパークを積極的に活用していく。 ○九九の完全習得に向けてひょうごがんぱりタイムを2～3年生でおこなう。 	
	ICT機器を効果的に活用した取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ◆ICT機器の使い方について、昨年度は授業研究や研修を行った。体育などの教科で有効に使う方法について分かってきた。 ◆アプリを効果的に活用することでプレゼンテーションを楽しんで行えるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えをノートに表したり、ICT機器を使用してプレゼンテーションを行ったりして、順序立てて相手に分かりやすいように説明できる児童を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童アンケートの「いろいろな考えを出し合っていますか」で肯定的な意見を増加させる。 ○毎学期児童によるICT機器を用いた発表をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ノートやホワイトボード、またはそれに代わるアプリを用いて自分の考えを交流させ、これらを意図的に授業に取り入れる。 	
	定期テスト、単元テストなどによる状況(各教科)	<ul style="list-style-type: none"> ◆記述問題に対して無回答のままの児童が各クラスに数名いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各教科の理解を促すために、学習習慣を身につけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○すべてのクラスで学習開始の合図を同様に言い、授業に前向きに取り組めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ユニバーサルデザインの視点で授業を構築し、すべての児童が学習に前向きに取り組めるよう研修を行う。 ○「家庭学流の手引」を配布し、使い方を指導する。 	
	授業等からうかがえる状況(各教科)	<ul style="list-style-type: none"> ◆姿勢を保持して一単位時間を過ごすことができない児童が各クラスに数名いる。 ◆自分の意見を表現できる児童とそうでない児童の差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○すべての教育活動の中に「からだ」づくりを位置づけ、主体的に学習に取り組む姿勢を身につけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校評価の主体的に学習に取り組む項目の評価においてできていないと答える児童を5%以内にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○キッピー体操、リズム縄跳びなどに継続的に取り組ませ学習習慣を身につけやすいからだを育成する。 	
慣学・力生向上に慣れる学習状況	全国学力・学習状況調査の質問紙の状況	<ul style="list-style-type: none"> ◆ゲームやタブレットの使用時間が極端に多く、毎日決まった時間に就寝していないなど生活習慣が身につけていない児童が多い。 ◆自尊心が低く自分の良いところを認められなかったり、先生から認めてもらっていないと感じている児童が多く、困っている人を助けるなど自分の周りにおける状況まで考えが至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自尊心を高める取り組みとネットモラルを含めた情報リテラシーの向上を図る取り組みを促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ゲームやタブレットの使用時間を減少させ、早めの就寝により生活習慣を身につけさせる。 ○自尊心に関わる項目の向上。 	<ul style="list-style-type: none"> ○道徳、生活指導、外部講師の招聘をバランスよく行い、ネットモラルを身につけさせる。 ○学級会や児童集会など特別活動を中心とした児童が活躍する場を設定する。 	
	学校評価などのアンケート調査による児童・生徒の状況	<ul style="list-style-type: none"> ◆自分には良いところがないと答えている児童が28%いる。 ◆児童も保護者も読書習慣が身につけていると感じている割合が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○読書習慣の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童アンケートの「家で本を読むのが好きですか」で肯定的な意見を増加させる。 ○学校図書館を活用し、当たり前のよう身近に本がある状態を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭読書、朝読書の取り組みの継続。 ○お昼の放送などを利用した、図書委員会の活動の充実。 	
研修内研究の状況	校内研究の状況	<ul style="list-style-type: none"> ◆体育科を中心に「からだ」づくりに関する取り組みを始めた。授業改善だけでなく、すべての教育活動の中で身体教育を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自ら考え、共に高め合い合える子どもを目指して研究を進めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○単元を通じた学習計画や授業のめあてを立て、見通しを持ち、それに沿って学習を進めることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○単元計画やめあてを見える化し、見通しを子どもたちと共有する。 ○一人一授業公開を位置づけ、お互いに学び合える環境を構築する。 	
	校内研修の状況	<ul style="list-style-type: none"> ◆児童の生活背景や学力調査の結果をもとに、課題に対して個に応じた指導ができるように職員で共通理解する場を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童の成長や課題、目指す児童像についての共通理解と個に応じた支援の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童理解に関わる校内研修会や授業実践の交流会を定期的に開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○定期的な研修会の開催とともに必要に応じてケース会議を持ち、児童理解や支援方法、支援体制を検討する。 	
家庭連携の状況	家庭・地域等の状況	<ul style="list-style-type: none"> ◆児童の生活背景を十分に把握したうえで児童理解に努めるとともに、家庭学習や適切な生活習慣などを身に付けられるように保護者との連携を大切にしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭における学習習慣を確立する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者アンケートの「家庭学習」の項目で肯定的な回答が90%以上となるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「家庭学習の手引き」を配布し、継続的に声掛けすることで活用させていく。 	
	小・中における教科連携等の状況	<ul style="list-style-type: none"> ◆オープンスクールの参観、中学校の教師による出前授業(理科・外国語)が実施されている。また、生活指導担当教員での小中共同研修や特別支援学級の交流会が開催されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○小・中の連携を行い、スムーズな校種間の接続を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○年間2回、中学校の教師を招いて出前授業を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○3学期に中学校の授業を体験し、中学校への不安感を減少させる。 ○学校園所連携連絡会を定期的に開催し、学校間の連絡を密にする。 	